青谷町版総合戦略進捗状況

ID	大項目	項目	施策	内容	目標	実施主体	現状	具体的実施計画	進捗状況
1	Ⅰ　地域コミュニティを核とした“ひとづくり”	1．地域コミュニティの充実	各地区まちづくりリーダーの発掘	地域リーダーの発掘と育成	みんなで楽しく取り組むまちづくり	地区公民館・まちづくり協議会	少子高齢化が進み、地域の行事の参加が少なく、まちづくりがなかなか進まない。	地区公民館、まちづくり協議会が実施している事業を通じて、まちづくりとリーダーの発掘に取り組む。	平成26年度より3年間、日置地区まちづくり協議会が、ひおき産のそば栽培を中心とした里山交流促進モデル事業で城北地区と交流を実施し、地区の活性化に繋げた。
2	Ⅰ　地域コミュニティを核とした“ひとづくり”	1．地域コミュニティの充実	地域活動への参加意識	地区公民館の役割の再構築	環境整備事業数：3事業	地区公民館・まちづくり協議会	各地区公民館・まちづくり協議会で年間を通じて、環境整備活動(草刈等)を実施している。	スーパーボランティア、市アタプトプログラム等をPRする。	日置地区公民館　日置川清掃（3月）、環境整備（7月・9月）草刈 日置谷地区公民館　あじさいロード草刈(5月・7月・10月)、環境整備（6月・9月） 勝部地区公民館　寿会草刈（6月・10月）、不動滝周辺の環境整備（6月）、スーパーボランティア草刈（7月・10月） 中郷地区公民館　中郷地区景観づくり活動(6月)、中郷グラウンド整備(9月) 青谷地区公民館　公民館周辺清掃（6月・7月） 青谷地区まちづくり協議会　子どもたちと花植え（4月）、題目塔周辺草取り（7月）
3	Ⅰ　地域コミュニティを核とした“ひとづくり”	1．地域コミュニティの充実	地域活動への参加意識	地区座談会の開催	年2回開催（情報共有の機会増）	地区公民館・まちづくり協議会	平成26年度から2年間は、開催要望のある地区のみ開催してきたが、市民への情報提供の機会の増加が必要である。	地区座談会の開催のほか、各地区区長会長やまちづくり協議会、各種団体等を対象とし、鳥取市が実施している「出前講座」等を積極的にPRし、地域住民への情報提供の増加を図る。	平成28年度は、青谷地域全5地区で地区座談会を開催しており、市民への情報提供の機会を増やしている。
4	Ⅰ　地域コミュニティを核とした“ひとづくり”	1．地域コミュニティの充実	地域活動への参加意識	スーパーボランティアの促進（アダプト制度）	各地区1団体	地区公民館・まちづくり協議会	市、県が管理する道路、河川、公園等の環境美化について、すべてには維持管理が行き届いていないところである。 地域住民が地域の実情に応じて環境保全や美化活動などを行い、地域にふさわしい環境づくりを進めていく必要がある。	鳥取市「道路愛護活動にかかるアダプト事業」と鳥取県実施の「鳥取版河川・道路ボランティア促進事業」を活用し、道路、河川の保全や美化に、市民が積極的に参加していただくように市報等を利用し制度の周知を図る。	＜参画型ボランティア＞　小畑を愛する会（H24）、山根部落（H23）、日置谷“幸せの里”づくり協議会（H21）、青谷の川をきれいにする駅前区の会（H16）、本町区（H21）　＜協働型ボランティア＞　河原区の河川や環境を守る会（H23）、大坪元気組（H22）、奥崎のちょこっと15、勝部地区第一寿会澄水分団（H27）、栄町自治会　＜スーパーボランティア＞　勝部地域まちづくり協議会（H25）
5	Ⅰ　地域コミュニティを核とした“ひとづくり”	1．地域コミュニティの充実	地域の宝は地域が育てる	青中地域創造学校	目指す子どもの姿	創造学校・地域	青谷中学校区地域創造学校運営協議会がフォーラムや講演会などを実施。	引き続き青谷中学校区地域創造学校運営協議会主体となって「ふるさとを思い　志をもつ子」を育てていく。分室としては青少年育成青谷町地区協議会と共に、小中学生には青谷の自然の中で体験活動する機会や地域活動に参加する機会を提供し、それが高校生や大人になっても継続するよう図る。	①地域創造学校　活動を継続 ②青少年育成青谷町地区協議会　青谷地域子ども交流会、ふるさとあおや探訪バスツアー、清掃ボランティア活動
6	Ⅰ　地域コミュニティを核とした“ひとづくり”	1．地域コミュニティの充実	祭事や伝統文化の継承	高齢者、団塊の世代の協力	青谷学の開催	老人クラブ	地域の祭事や伝統文化について、若い世代の意識では、関心が低い・由来を理解していないなどの理由で継承しなかったり、規模を縮小する傾向が高くなってきている。 また、子どもたちや若者の減少により、行事が継承できないことにもつながっている。	子ども行事であっても、保護者だけでなく、地域の方が協力していく行事として、文化を継承していく。 地域の老人クラブ等の高齢者の集まりの中で、昔語りを取り入れ、祭事や伝統文化の大切さを認識し、地域住民への啓発活動につなげる。	各地区公民館では、節分の豆まき、ちまきづくり、勝部岩力・日置はねその練習会等、子どもたちに参加を呼び掛けて実施している。この事業は、地域の老人クラブや保存会の協力で実施している。
7	Ⅰ　地域コミュニティを核とした“ひとづくり”	1．地域コミュニティの充実	祭事や伝統文化の継承	子ども世代の地域活動参加	ルール・マナー・伝統等の伝承	地区公民館・集落	地域の祭事や伝統文化について、若い世代の意識では、関心が低い・由来を理解していないなどの理由で継承しなかったり、規模を縮小する傾向が高くなってきている。	同様の行事を実施している集落を、地区公民館などが中心となって情報交換会を開く。 また、高齢者等から伝統行事についての解説や、自分の思い出話を子どもたちに話してもらう。	各地区で実施しているウォーキングでは、地域の風物を観察し、地元の方の解説を聞く機会を設けている。 青谷菖蒲綱引きは、連合保存会での活動はないが、各集落保存会で事業を継続実施している。

ID	大項目	項目	施策	内容	目標	実施主体	現状	具体的実施計画	進捗状況
8	Ⅰ　地域コミュニティを核とした“ひとづくり”	1．地域コミュニティの充実	祭事や伝統文化の継承	集落単独実施から複数集落実施への移行	合同実施による継承・意識啓発	地区公民館・集落	子ども等、祭事等の運営主体が少人数化している。運営主体の人数を確保するため、地域住民全体で実施しようと取り組む集落もある。	同様の行事を実施している集落を、地区公民館が中心となって情報交換会を開く。 伝統行事等を伝承している集落から、周辺の集落に見学や参加を呼び掛ける。	各集落では、とんどさん・いのこさん・村祭り・盆踊り等が継続して行われている。 青谷菖蒲綱引きは、連合保存会での活動はないが、各集落保存会で事業を継続実施している。
9	Ⅱ　地域資源を活かした“まちの魅力づくり”	1．地域生活拠点の整備	青谷賑わい広場整備	駐車場整備（ウェルネス前）	平成26年度	都市企画課	地区内の居住人口は、著しい減少が続いており、少子化・高齢化とともに鳥取市の中でも進行の度合いが高くなっています。また、人口流出による空き家や空き店舗が増加している。	地域コミュニティの活性化を図るため、青谷駅に近い公共空地（旧岸本三光堂跡地）に商業施設の集積を図り、にぎわい・活気のある空間として整備します。 商業集積地の駐車場整備により利用者の利便性を向上し、人が気軽に立ち寄ることができる賑わい空間の創出とイベント時に広場として活用を促す。	平成26年度　実施設計・駐車場工事　事業費　20,000千円　実施済
10	Ⅱ　地域資源を活かした“まちの魅力づくり”	1．地域生活拠点の整備	青谷中央広場（仮称）整備	広場整備等（解体・整備）	平成27～29年度	都市企画課	地区内の居住人口は、著しい減少が続いており、少子化・高齢化とともに鳥取市の中でも進行の度合いが高くなっています。また、人口流出による空き家や空き店舗が増加している。	地域コミュニティの活性化を図るため、旧青谷町中央公民館を取り壊して広場の整備を行い、また福井田川親水護岸整備と併せて青谷地区の憩いの場として、誰もが立ち寄れて憩うことができる空間の整備を行う。	平成26年度　広場設計　事業費　5,000千円 平成27年度　建物解体設計　事業費　3,000千円 平成28年度　建物解体工事　事業費　41,000千円 平成29年度　建物解体工事　事業費　38,000千円 平成30年度　広場整備　事業費　40,000千円
11	Ⅱ　地域資源を活かした“まちの魅力づくり”	1．地域生活拠点の整備	福井田川親水護岸整備	親水護岸整備	平成27～29年度	都市企画課	地区内の居住人口は、著しい減少が続いており、少子化・高齢化とともに鳥取市の中でも進行の度合いが高くなっています。また、人口流出による空き家や空き店舗が増加している。	地域コミュニティの活性化を図るため、旧青谷町中央公民館跡地の広場整備に併せて福井田川親水護岸整備を行い、青谷地区の憩いの場として誰もが立ち寄れて憩うことができる空間の整備を行う。	平成27年度　実施設計　3,000千円 平成28年度　第1期工事　6,000千円 平成30年度　第2期工事　10,000千円（植栽・舗装など）
12	Ⅱ　地域資源を活かした“まちの魅力づくり”	1．地域生活拠点の整備	JR青谷駅前広場整備	駅前広場整備	平成28～29年度	都市企画課	地区内の居住人口は、著しい減少が続いており、少子化・高齢化とともに鳥取市の中でも進行の度合いが高くなっています。また、人口流出による空き家や空き店舗が増加している。	地域コミュニティの活性化策として、青谷地域の中心地であるJR青谷駅広場を歩行者、自動車の寄り付きやすい空間として整備を行う。	平成28年度　実施設計 平成29年度　工事施工 （JR青谷駅前広場整備事業（地域生活基盤施設）　A=1,400m2　事業費　27,000千円）
13	Ⅱ　地域資源を活かした“まちの魅力づくり”	1．地域生活拠点の整備	JR青谷駅前広場整備	バス待合所・公衆トイレ等（駅前青谷駐在所跡地活用）	平成29～30年度	都市企画課	JR青谷駅前地区は、旧青谷町の交通、商業など地域コミュニティの中心となってきました。しかし、少子化・高齢化とともに鳥取市の中でもその進行の度合いが高く、人口流出による空き家や空き店舗が増加しる。	青谷駅周辺の地域コミュニティの活性化を図るためJR青谷駅前広場にバス待合所や公衆トイレを設置し、人や車が立ち寄ることができる空間の整備を行う。	平成29年度　実施設計 平成30年度　工事施工 （JR青谷駅前バス待合所整備事業（高質空間形成施設）　事業費　12,000千円）
14	Ⅱ　地域資源を活かした“まちの魅力づくり”	1．地域生活拠点の整備	照明灯整備	LED照明灯整備（日置川沿）	平成29～30年度	都市企画課	和紙灯篭設置事業を行う中で、既設のLED照明が事業の妨げにならないかなど、地元の意向確認が必要。	日置川から勝部川河口にかけた自然風景に青谷特産の和紙を融合させた修景整備を行う。まちの魅力をアピールすると共に地域の憩いの散策コースとしての整備を進める。	平成30年度　実施設計、工事施工 （LED照明灯整備　L=1,800m　事業費　20,000千円）
15	Ⅱ　地域資源を活かした“まちの魅力づくり”	1．地域生活拠点の整備	東町排水ポンプ整備	排水ポンプの増強	平成28～29年度	都市企画課	青谷町東町の一部では、土地が低い上に地盤が弱く、福井田川からの流水もあることから、大雨の際に住民は浸水の恐れに悩まされている。ポンプを整備してからは、以前よりは解消されてはきたが、まだ十分とは言えず、抜本的な整備とポンプの増設が望まれている。	福井田川からの流水を止め、また他水路からの流水を防ぐための防護壁を造るとともに、新たな排水路の整備と排水ポンプを新設することで、集水効率と排水能力の向上を図る。	H29.4　地元説明会 H29.5　計画（案）の説明会 H29　用地買収 H30　工事

ID	大項目	項目	施策	内容	目標	実施主体	現状	具体的実施計画	進捗状況
16	Ⅱ　地域資源を活かした“まちの魅力づくり”	1．地域生活拠点の整備	企業誘致	西部地域への企業誘致	山陰道（鳥取西道路）開通後の立地としての魅力アップ	企業立地・支援課	西部地域では、一段と人口減少が進み地域活力の低下などが顕在化しつつあり、地域の活性化を図るためには若者等が働く場の確保が重要な課題となっている。 しかし、近年は企業誘致の実績が少ない。	平成30年度に山陰道鳥取西道路が開通する予定となっており、交通アクセスが飛躍的に向上する機会をとらえ、西部地域に新たな工業団地の整備を検討する。	西部地域三町で候補地をピックアップし、工業団地造成における諸課題に対する関係課の意見聴取を行いながら、候補地を検討している。 企業立地・支援課と連携し、企業誘致に努めている。
17	Ⅱ　地域資源を活かした“まちの魅力づくり”	1．地域生活拠点の整備	企業誘致	鳥取森田跡地活用	継続的な招致	企業立地・支援課	昭和42年に旧青谷町に進出し、約46年間にわたって青谷地域の地域振興や雇用の確保に貢献してきた鳥取森田㈱を平成25年10月に閉鎖され、現在に至っている。	所在地はJR青谷駅に近接し、また青谷駅南工業団地にあり、利便性がよい。ここに企業を誘致し、地域の雇用の確保を図る。	企業から引き合いがない。
18	Ⅱ　地域資源を活かした“まちの魅力づくり”	2．地場産業の育成	農林漁業の活性化	後継者育成	新規就業者数：5人	JA・漁協・農業公社	漁業では、平成26年度、鳥取県漁協夏泊支所で定置網漁の操業開始に伴い、6名の新規就業者を確保した。※平成28年度現在5名 しかし、いづれも50代以上の就業者であるため、後継者とは言えない部分がある。若者就業者の確保が必要である。 農業でも、高齢化と後継者・担い手不足から耕作放棄地が増加しており、また、認定農業者等も減少傾向であり、今後の農地の荒廃等が心配される。	Iターン、またはUターンの方が農林漁業への関心が高い傾向があるので、農業振興課、林務水産課、地域振興課等と連携を図りながら対象者への支援、対応をしていく。	平成28年度より、就農舎（農業公社）の農業現地研修生が2人研修を行っている。今後、条件が合えば青谷で就農の予定である。
19	Ⅱ　地域資源を活かした“まちの魅力づくり”	2．地場産業の育成	青谷因州和紙産地強化事業関連（ようこそまつりの見直し関連）	因州青谷こうぞ紙手すき和紙保存会の活性化後継者育成	ユネスコ世界文化遺産登録 産地のイメージアップ	実行委員会	因州和紙は、近年手すき和紙事業者が激減し、産地としての存続と後継者の育成が喫緊の課題となっている。こうした中、鳥取県指定無形文化財「因州青谷こうぞ紙」の保持団体である「因州青谷こうぞ紙手すき和紙保存会」が、平成27年度活動を再開した。	1　因州青谷こうぞ紙手すき和紙保存事業 ①「因州青谷こうぞ紙手すき和紙伝統技術取り組み事業」 ②「手すき和紙後継者育成体験セミナー」 2　因州和紙PRイベント開催＆情報発信事業 ①「因州和紙フォーラム」 ②「因州和紙フェスタ＆ひおき収穫祭」	青谷地域にぎわい創出実行委員会青谷因州和紙産地強化事業部会を中心に事業を実施している。平成28年度、実施計画にある事業を実施した。 ※地域おこし協力隊H29.8.1から1名採用（因州和紙の振興と産地活性化への取り組み）
20	Ⅱ　地域資源を活かした“まちの魅力づくり”	2．地場産業の育成	青谷因州和紙産地強化事業関連（ようこそまつりの見直し関連）	和紙の活用・コラボ「和紙と雑貨」「和紙と民宿」	新たな構想の発信・起業支援	市民・団体	「青谷地域」として、因州和紙の新たな活用方法の認識は低い。	生活の中に和紙を活かす取り組みが期待される。例えば、個人の住宅や空き家での和紙製品等の活用を図り、PRに繋げていく。現在、青谷因州和紙産地強化事業として和紙の活用等を含めて取り組んでおり、この中で検討する。	現段階ではこのような動きはないが、今後の展開を見込んでいる。
21	Ⅱ　地域資源を活かした“まちの魅力づくり”	2．地場産業の育成	ジオ関連ガイド、産業の発掘	ジオガイドの育成	ジオガイド数：10人	団体	青谷町ガイドネットワークが平成28年3月17日に設立され、会員個々で観光客等を中心にガイド活動を行っている。	ジオパーク及びガイド関連の組織との連携、ネットワークの例会を重ねることで会の活動を充実させるとともにガイドの育成を行っていく。 また、補助事業等を利用しイベントの実施を計画を立てていく。	ガイド数は現在7名。今後活動の中で後継者発掘も併せて行っていく。 青谷町ガイドネットワークの主催で『青谷地域「魅力・輝き」発見発掘ツアー』を平成28年11月27日（日）に開催した。参加者18名（募集20名） また、月に一度のペースで例会を開催し、イベント企画や、各会員が持ち寄った情報をの交換を重ね、組織内情報共有を行っている。
22	Ⅱ　地域資源を活かした“まちの魅力づくり”	2．地場産業の育成	歴史的資源の活用	青谷上寺地遺跡の保存活用	交流人口の拡大	団体	青谷上寺地遺跡展示館で、遺物等の展示や関連事業を実施している。 鳥取県埋蔵文化財センター青谷調査室は、調査研究だけでなく土曜講座を開くなど啓発活動に努めている。 また、鳥取県と鳥取市が協働して設置した史跡青谷上寺地遺跡保存活用協議会は、青谷上寺地遺跡展示館を拠点として啓発活動に努めている。	青谷上寺地遺跡の史跡整備等について、広く地域の声を聞き、基本計画の見直しと基本設計に結び付ける。 青谷上寺地遺跡展示館と保存活用協議会等の団体間の連携を密にし、啓発活動に努める。	平成28年度から組織された「とっとり弥生の王国調査整備活用委員会」に総合支所としてオブザーバー参加するとともに、地元青谷から2名の委員に参画してもらい、地域に根付いた史跡の基本設計の策定に取り組んでいる。 青谷上寺地遺跡展示館と青谷上寺地遺跡史跡保存活用協議会は、それぞれ事業を実施し、啓発活動に努めている。

ID	大項目	項目	施策	内容	目標	実施主体	現状	具体的実施計画	進捗状況
23	Ⅱ　地域資源を活かした“まちの魅力づくり”	2. 地場産業の育成	団塊の世代によるまちづくり	元気塾への参加など中高年の経験や知識の活用	組織化数：3団体	市民・団体	とっとりふるさと元気塾の活動は、7月から12月までであり、2月に報告会（フォーラム）があるが、その他の月は委託業者の準備とまとめの期間になっている。	平成29年度とっとりふるさと元気塾で10回の開講予定があり、歴代参加者および地区公民館へ周知していく。 歴代参加者へ追跡ヒアリングを実施し、活動に関する課題や支援策について検討する。	ふるさと元気塾も6年目となり、開催内容・新たな団体等が頭打ち状態となりつつある。 新たな団体等が参加するよう、働きかけが必要である。
26	Ⅱ　地域資源を活かした“まちの魅力づくり”	3. 地域活性化イベントの再構築	青谷ようこそ市場（通称：あおいち）の開催（ようこそまつりの見直し関連）	駅前賑わいの場での開催（6月～11月毎月1回定期開催）	入込客1,000人 特別イベント等の開催による集客	実行委員会	マンネリ化し、集客数が3000名を下回った青谷ようこそまつりを見直し、青谷駅前周辺に賑わいを取り戻すため平成28年度より新たに青谷ようこそ市場（通称：あおいち）を開催する	定期的なイベントとして「あおいち」を年5回開催し、地域の活性化を図る。 平成29年度は、鳥取環境大学泉ゼミに市場調査委協力委託を行い、若者と地域の協働のまちづくり方法の検討と第5回あおいちイベントの企画を行ってもらう。 平成30年度に向けて実行委員会のあり方を検討する。	平成28年度実績 6月12日：青谷ようこそ館前600名、8月11日：夏泊漁港400名、9月11日：夏泊漁港600名、10月9日：青谷ようこそ館前600名、11月27日：ようこそ館前300名 あおいちギャラリー11月23日～27日　西商工会青谷会館156名 平成29年度は、青谷高等学校、埋蔵文化財センター青谷調査室などと協力体制を整えたり、協同であおいちを実施する団体を発掘していく。また、28年度とは違う形で鳥取環境大学泉ゼミと連携していく。
27	Ⅱ　地域資源を活かした“まちの魅力づくり”	3. 地域活性化イベントの再構築	青谷ようこそ市場（通称：あおいち）の開催（ようこそまつりの見直し関連）	まちなかギャラリー発掘	ギャラリー3ヶ所	実行委員会・団体	青谷ようこそまつりの見直しに伴い、市民のギャラリー展示スペースの整備を検討している。西商工会青谷会館での展示を予定。空き家、空き店舗等の確保が難しい。	あおいち開催に合わせ、青谷町文化協議会展示系の出展以外にも広く一般に出展者を募集し、西商工会青谷会館を利用し、「あおいちギャラリー」を開催する。	平成28年度は旧西商工会館で実施した。
28	Ⅱ　地域資源を活かした“まちの魅力づくり”	3. 地域活性化イベントの再構築	夏泊朝市の継続	定置網による鮮魚販売	入込客300人 鮮魚宅配の導入	夏泊漁協	平成26年度より夏泊漁港で操業開始した定置網漁に伴い、荷揚場にて朝市も開始。年々入込客数を増えている。 入込客のほとんどが地元住民であり、今後地区外への周知が必要である。	入込客数については、増加傾向であるため、更に内容を充実させ、PRを継続させていく。 宅配便を利用して、より多くのお客様へ購入していただく(地区外の人)	朝市の入込客数は、あおいち以外の通常では平日約70人、土日約170人である。 朝市は継続中。（4月～11月末　毎週火曜日定休日）
29	Ⅱ　地域資源を活かした“まちの魅力づくり”	3. 地域活性化イベントの再構築	夏泊朝市の継続	あおいちとの連携	入込客500人	商工会・各種団体・夏泊漁協	平成28年度より「あおいち」が、計6回開催予定となるが、そのうち7月、8月の開催を夏泊で実施する予定である。	すでに平成26年度より実施している夏泊定置網朝市とのコラボによる相乗効果により集客を図る。またPRを継続して実施し、入込客数1000人の目標を達成させる。	平成28年度から、青谷ようこそ市場（通称：あおいち）が開催され、年6回のうち2回を夏泊漁港で開催した。あおいち開催日は来場者も多く大盛況であり、目標の入込客数も9月開催のあおいちで達成できた。
30	Ⅱ　地域資源を活かした“まちの魅力づくり”	3. 地域活性化イベントの再構築	マリンイベント	サーフィン・スタンドアップパドルボードイベントの開催	年2回	団体	青谷地域活性化推進事業である青谷地域づくり連絡協議会主催の新規事業として、スタンドアップパドルボード体験を実施し、青谷の海で体験できるジオサイト水上スポーツとして定着することをめざす。	年2～3回開催予定。場所は井手ヶ浜海岸、青谷海岸および勝部川のいずれか。1回につき12人程度募集し、インストラクターによる指導のもと、スタンドアップパドルボードを体験する。	開催に向けて、体験者募集のチラシを作成し、町内を中心に配布した。鳥取市ホームページなどにも掲満して町内外に発信した。 平成29年度は、年3回、7月と8月に単独イベントとして、また9月のあおや鳴り砂ビーチフェスタの中で開催予定。初心者にもできる水上スポーツとしてPRを図っている。
31	Ⅱ　地域資源を活かした“まちの魅力づくり”	3. 地域活性化イベントの再構築	クラウドファンディング活用	井手ケ浜多目的広場活用	企画の整理・調整	民間	この広場は市有地であり、現在はトイレ・水道が設置され、サーファーなどが利用している。	この広場も含め、クラウドファンディングを青谷地域で推進するためのノウハウを習得し、PRを図る。	現段階では動きなし。

ID	大項目	項目	施策	内容	目標	実施主体	現状	具体的実施計画	進捗状況
32	Ⅱ　地域資源を活かした“まちの魅力づくり”	3．地域活性化イベントの再構築	フットパスの開催	素材を活かした各地区別のウォーキングコース設定	各地区既存コースをミニフットパスとしてPR こばしまウォーキングの充実 石碑・川六作品探索コース	地区公民館・まちづくり協議会・民間団体	主催はこばしまウォーキング実行委員会。主管は鳥取市体育協会青谷町支部、青谷町健康づくり地区推進員会、青谷スポーツクラブ。これまでに青谷地区、勝部地区で開催。平成28年度は日置地区で実施予定。青谷町健康づくり地区推進員会が作成した「あおやふれあいウォーキングマップ」をもとにコースを設定している。	こばしまウォーキングを5地区全てで開催し、それを基に地域の素材を活かしたコースを設定する。	平成29年度のこばしまウォーキングは、中郷地区で開催予定。
33	Ⅱ　地域資源を活かした“まちの魅力づくり”	3．地域活性化イベントの再構築	西因幡グランドデザインとの連携	道の駅への運営参画	出店参加団体との早期調整	民間	出店可能団体の洗い出し。	道の駅の指定管理者が決定後、進める案件である。青谷地域の産品の調整等、必要に応じて対応していく。	現段階では動きなし。
34	Ⅱ　地域資源を活かした“まちの魅力づくり”	4．青谷高等学校の特色ある取り組み	青谷高等学校魅力アップ	青谷高等学校のあり方を考える協議会	青谷高校の入学者数の増加・存続	協議会・地域	鳥取県立青谷高等学校は、平成27年度入学者数が定員114人に対し76人で大幅に定員を下回る現状である。「青谷高等学校の存続」は、青谷地域はもとより、鳥取市西部地域の今後の活性化に不可欠との認識から、「青谷高等学校のあり方を考える協議会」を平成26年12月に立ち上げ、関係機関への要望活動や先進地視察等に取り組んでいく。	先進地視察（兵庫県村岡高校、岩美高校）、青谷高校生の地域イベントへの参画、また、青谷高校の取り組み等を支所だよりで紹介する。	平成26年12月以降、青谷高等学校のあり方を考える協議会を8回開催し、今後の取り組み等を検討するとともに、県内外の高校を視察するなど、各地域・高校の取り組みの調査も行ってきた。 平成29年度に、青谷高等学校のあり方を考える協議会に変わる新たな組織を立ち上げ、地域との連携を強化し、魅力アップを目指す。
35	Ⅱ　地域資源を活かした“まちの魅力づくり”	4．青谷高等学校の特色ある取り組み	青谷高等学校魅力アップ	青谷高校生卓球部員による卓球教室	参加者：200人	青谷高校・協議会	わかとり国体卓球会場」「青谷高等学校卓球部インターハイ30回連続出場」などの歴史をもつ「卓球のまち青谷」の地域活性化と鳥取県内スポーツ振興とスポーツ精神の高揚を図ることを目的に、青谷高校生卓球部員が主体となり、インターハイ出場経験選手や社会人リーグで活躍中の選手である青谷高等学校卓球部OGやOBの豊富な人材を指導者として平成27年度から実施。	青谷高等学校の魅力アップのため、卓球部員による卓球教室の開催 指導者：青谷高校卓球部員、青谷高校卓球部OB・OG 対象者：小中学生、一般、 内容等：レベルに合わせたきめ細かな卓球指導とし、個別指導を行う他、参加者からの要望に応えた形で随時指導を行う。	平成27年度　参加者90名、指導者30名 平成28年度　参加者70名、指導者40名 今後も引き続き、教室の指導内容を充実させていく。
36	Ⅱ　地域資源を活かした“まちの魅力づくり”	4．青谷高等学校の特色ある取り組み	青谷高等学校魅力アップ	青谷オープン卓球	参加者：500人	県卓球連盟	「わかとり国体卓球会場」「青谷高等学校卓球部インターハイ30回連続出場」などの歴史をもつ「卓球のまち青谷」の地域活性化と鳥取県内スポーツ振興とスポーツ精神の高揚を図ることを目的に、近県の中学校卓球部参加により男女別の団体戦を行う。	中国5県及び鳥取市姉妹都市姫路市、交流都市池田市の中体連卓球専門委員長へ各県や市の代表として青谷オープン卓球へ出場チームを決定。男女とも12チームで団体戦を行う。青谷高等学校卓球部や青谷高校卓球部OB・OGを大会競技役員とし、地域をあげて大会に係わる。 　また、大会開催中に有名選手による卓球講習会を実施するなど、オープン卓球大会の充実を図る。 　卓球のまち青谷の復活と審判等青谷高等学校卓球部の活躍の場を設定する。	平成27年度　男子12チーム、女子9チーム参加。卓球講習会講師：元世界チャンピオン　小野誠治さん、元オリンピック代表選手　仲村錦次郎さん 平成28年度　男子　12チーム、女子10チーム。卓球講習会講師：元オリンピック代表選手　仲村錦次郎さん、TSP所属選手：尾留川竜希さん 参加したチームの選手や監督からは、好評を得ているので、大会知名度のアップを図る。
37	Ⅱ　地域資源を活かした“まちの魅力づくり”	4．青谷高等学校の特色ある取り組み	青谷高等学校魅力アップ	国際交流の推進	交流事業の参加者：300人	青谷高校	交流都市として友好を深めている中国太倉市から明徳高等学校の生徒等と、韓国居昌中央高等学校から生徒等を招致し、地域資源を活かし、地域とのふれあい・体験の場を提供して、地域住民とも関わりながら友好交流を深めていく。	中国と韓国から4日間にわたって受け入れ、周辺地域の視察を行いながら、若者同士の交流を図る。	平成28年度は、。韓国5人と中国5人の生徒等を招致。青谷高校からの要望により、シンポジウムから授業交流を中心とした事業を実施。 平成29年度は、韓国居昌中央高等学校との相互訪問等による学校間交流を実施し、若者同士の交流を図る。（県事業予算による実施）

ID	大項目	項目	施策	内容	目標	実施主体	現状	具体的実施計画	進捗状況
38	Ⅱ　地域資源を活かした“まちの魅力づくり”	4. 青谷高等学校の特色ある取り組み	青谷高等学校魅力アップ	ボランティア活動	参加生徒数：１００人	青谷高校・地域	平成27年度の参加状況は、卓球部による菖蒲綱の参加、卓球教室、鳴り砂サミットの参加、野球部・生徒会による青谷駅清掃、青谷ようこそまつりなど、たくさんの地域の行事等に参加し地域との関わりを深めた。	青谷高等学校の生徒会・卓球部による菖蒲綱の参加、卓球教室、あおいちなど、たくさんの地域の行事等に積極的に参加し、青谷地域との繋がりを深めていく。生徒が地域イベントへ参画し、ボランティアとして参加していることを、広報的に情報発信していくことにより、青谷高校生が社会の一員として参加していることを地域住民などへ広く知らせる。	平成28年度は、生徒会・卓球部による菖蒲綱の参加、卓球教室、野球部・生徒会による青谷駅清掃、あおいちなどたくさんの地域の行事等に積極的に参加し、青谷地域との繋がりを深めた。
39	Ⅱ　地域資源を活かした“まちの魅力づくり”	4. 青谷高等学校の特色ある取り組み	青谷高等学校魅力アップ	青谷学の開催・協力	授業開催：２回/週	青谷高校・地域	青谷高校と連絡を密にし、地域や支所が協力して取り組んでいる。	「青谷学」の充実に向け、行政や青谷地域住民等との関わりを強化していく。	平成２９年度より「青谷学」を２年生の授業の必須科目とし、地域への理解と関心を深めるカリキュラムに取り組んでおり、３つのグループに分かれてワーキングを行う。そのアドバイスを地域住民が行う。時期は、１１月～１２月で週１回の計7回。
40	Ⅱ　地域資源を活かした“まちの魅力づくり”	4. 青谷高等学校の特色ある取り組み	青谷高等学校魅力アップ	文科系部活動のPR	美術部・書道部等の作品の通路展示	青谷高校	演劇部・吹奏楽部を含む文科系部活動は、体育系部活動と比較して、発表する機会が少ないこともあり、活動していることも対外的に知られてなく、部員も少ない状況である。	高校生の部活動への取組み等を相互理解することにより、地域の中における青谷高校の存在意義も充実する。例えば、年1回、総合支所多目的ホールにおいて、地元住民（小中学生含む）の前で発表する機会を設けることなどを考える。	青谷高校生の作品展はあおや郷土館で開催している。今後は、他の場所での開催を検討していく。
41	Ⅱ　地域資源を活かした“まちの魅力づくり”	5. 地域経済における人材還流と育成強化	池田市との交流促進	池田市イベントへの参加	参加イベント：3回（青谷物産の販売）	農業公社・民間団体	農業公社が中心に池田市民カーニバル、池田市農業祭等に参加し、特産品の販売、PRを行っている。	8月　池田市民カーニバル参加し、青谷特産物の販売、PRを行う。（農業公社職員、青谷支所職員） 11月　池田市農業祭参加し、青谷農産物販売、PRを行う。（農業公社職員、農業者、青谷支所職員） 池田市ふるさと納税に青谷町特産物のPRを行う。（農業公社職員、農業者、青谷支所職員） 池田市を通した販路の拡大を行う。（農業公社）	8月　　池田市民カーニバル参加し、青谷特産物の販売、PRを行う。（農業公社、青谷支所職員） 11月　池田市農業祭参加し、青谷農産物販売、PRを行う。（農業公社職員、農業者、青谷支所職員） 池田市ふるさと納税謝礼品に青谷町特産物を利用していただいている。（H28年度実績　803件　4,015,000円） 池田市に紹介いただいた、ダイハツ工業生活協同組合との特産物の販売、取引を行っている。
42	Ⅱ　地域資源を活かした“まちの魅力づくり”	5. 地域経済における人材還流と育成強化	ダイキンアレスとの交流促進	（納涼祭への参加）	青谷物産の販売	農業公社・民間団体	JA青谷支店が中心にダイキン工業納涼祭（大阪）に参加し、特産品の販売、PRを行っている。	8月　ダイキン工業納涼祭（大阪）に参加し、特産品の販売、PRを行う。	8月　ダイキン工業納涼祭（淀川）にJA青谷支店が出店し、梨を中心に特産物の販売、PRを行った。
43	Ⅱ　地域資源を活かした“まちの魅力づくり”	5. 地域経済における人材還流と育成強化	ダイキンアレスとの交流促進	関連企業への販路開拓	青谷物産の販売	農業公社	ダイキンアレス朝市にかちべ伝承館、ようこそ館が出店し農産物等の販売、ダイキン工業納涼祭にJA青谷支店が参加し、農産物の販売を行っている。	ダイキンアレス朝市に出店し、青谷特産物の販売、PRを行う。（かちべ伝承館、農業公社） ダイキンアレスを通じて販路開拓を行う。（農業公社）	ダイキンアレス朝市にゴールデンウィーク期間に、かちべ伝承館、ようこそ館等が出店し、宿泊、利用者に農産物等の販売、PRを行なった。夏期、年末年始の期間に開催される朝市に販売、PRを行う。
44	Ⅱ　地域資源を活かした“まちの魅力づくり”	5. 地域経済における人材還流と育成強化	青谷町出身者の知的財産の活用	県内外で活躍する青谷町出身者、ゆかりのある方の発掘、作品等を紹介する機会を継続的に実施する	人物や作品等を紹介する機会を通して伝承に繋げ、触れることによる教育普及及び紹介冊子の作成	あおや郷土館	あおや郷土館では、青谷町にかかわる芸術作品の情報を収集し、定期的に展覧会等を実施している。 青谷中学校では、青谷町出身の著名人等を招聘し、講演してもらっている。	県内外で活躍している青谷町出身者の把握を行う戸ともに、中学校の同窓会等を利用して、情報の収集に努める。	あおや郷土館では、青谷町にゆかりのある著名人の芸術作品を展示するほか、西地域で活躍する作家等の展覧会、青谷町文化協議会の作品展示等を随時実施している。このような事業の中で、多方面で活躍している青谷ゆかりの人々の情報を収集している。 青谷中学校では、青谷町出身の著名人の掘り起こしを、保護者等から収集している。

ID	大項目	項目	施策	内容	目標	実施主体	現状	具体的実施計画	進捗状況
45	Ⅱ　地域資源を活かした“まちの魅力づくり”	5. 地域経済における人材還流と育成強化	空家の活用及び移住定住の促進	移住定住空家運営業務委託（空家調査等） 空家・遊休施設の活用（ギャラリー、ゲストハウス等）	空家・遊休施設（店舗等）の活用10ヵ所 空家の詳細を動画でネット配信	NPO	平成27年10月より、地元の「N.P.Oじげ」が鳥取市空き家運営業務を実施し、移住定住に向けて取り組んでいる。お試し定住体験施設の運営も前向きに検討中である。	現在実施中の委託業務がスムーズに進むよう連絡調整を行う。 空き家の詳細ネット配信について、平成29年度は動画配信を実施できるよう働きかけ・協力を行う。 移住定住成果についてネット上でPRしていく。 移住定住だけではなく、ギャラリーやゲストハウス等の活用を推進する。	空き家の登録は順調（H29.7月現在10軒）であるが、実際の移住定住に結び付いていない。
46	Ⅱ　地域資源を活かした“まちの魅力づくり”	5. 地域経済における人材還流と育成強化	他地域の素材との連携	例：子守神社の磨き上げ、白兎神社や八上姫とのストーリー作りなど	新たな観光ルートの可能性の検討	旅行会社・行政	子守神社は一部には知られているものの、その神秘的な魅力が活かされていない。 石碑や川六作品など、PRすべき資源は多い。	「白兎神社＝縁結び　子守神社＝子育て」の組み合わせでの魅力発信を検討する。大国主命、八上姫、この二人に縁のある長尾鼻の伝説等を繋ぐ。川六作品の探索コースを設定する。これらの資源を商品として売り出す可能性を調査研究する。	現状、動きなし。
47	Ⅲ　誰もが活き活きと安心して暮らせる“まちづくり”	1. 自主防災組織等の充実と連携	自主防災組織の体制整備と連携強化	体制整備と連携	全集落で体制整備	地域	現在、青谷地域全43集落のうち望町を除く42集落に「自主防災会」が組織されており、共助という視点から活動を行っている。 そうした中で、近年の地震、台風等による災害の発生を受け、住民の防災意識が高まりつつあり、各自治会の自主防災会で避難訓練や防災講習の実施に取り組むところが増えてきている。	各自主防災会は、鳥取市自主防災会連合会に属し、連合会組織のもとで活動している。その活動を行う上で、連合会から各種助成があり、これらを活用しながら活動を進める。特に、消火訓練、放水訓練、避難訓練、防災講習会、救急講習会などを年間計画に取り入れて活動を行う。	鳥取市自主防災会連合会の助成を受けて活動している自主防災会の状況 青谷町助成実績 ・平成27年度26防災会／42防災会、2地区／5地区 ・平成28年度17防災会／42防災会、1地区／5地区（2月1日現在）
48	Ⅲ　誰もが活き活きと安心して暮らせる“まちづくり”	1. 自主防災組織等の充実と連携	避難行動要支援者支援制度への登録啓発	全地区での取り組み強化 制度の啓発と地域との連携	登録集落：全集落	地域	・青谷地域では平成21年度から取り組み始め、全ての地区で取り組んでいる。 ・平成27年4月1日時点の登録集落31、登録者数は270人。	・青谷町自治連合会総会・研修会、地区座談会において登録啓発を進めていく。 ・民生児童委員会で説明し、それぞれの地域へ声かけを進めていただく。 ・各地区、集落等で要請があれば説明会を開催し、本事業の推進を図る。	・各地区へ取り組みを依頼し、現在取組中。 ・民生委員さんへも本事業を説明し、それぞれ担当地区への啓発を依頼している。 ・各集落での取り組みが進んでおり、着実に登録人数が増えている。 ・平成29年6月1日時点の登録集落36、登録者数は414人である。
49	Ⅲ　誰もが活き活きと安心して暮らせる“まちづくり”	1. 自主防災組織等の充実と連携	ひとり暮らしの高齢者世帯へ「安心ホットライン」設置の啓発	事業説明と周知	全集落で体制整備	地域	平成27年4月1日時点の設置件数は38件。	①青谷町自治連合会総会・研修会、地区座談会において設置啓発を進めていく。 ②民生児童委員会で説明し、それぞれの地域へ声かけを進めていただく。 ③各地区、集落等で要請があれば説明会を開催し、本事業の推進を図る。	①各地区へ取り組みを依頼し、現在取組中。 ②民生委員さんへも本事業を説明し、それぞれ担当地区への啓発を依頼している。 ③平成29年6月1日時点の設置件数は35件。 （新規登録　平成27年度　7件　　平成28年度　5件　合計　12件）
50	Ⅲ　誰もが活き活きと安心して暮らせる“まちづくり”	2. 生活に必要な利便性の確保	地域バスの運行対策	地域独自バス運行	オンデマンド方式の可能性の検討	民間・NPO	青谷地域のバス利用者は主に小学生であり、地域住民の利用はほとんどなく、赤字が継続している。今後の運行に向けた整理が必要である。	青谷に適した方法の検討を行う。	現状、動きなし。
51	Ⅲ　誰もが活き活きと安心して暮らせる“まちづくり”	2. 生活に必要な利便性の確保	買い物支援対策	実態調査	可能性の検討	民間・NPO	現在は、JA鳥取いなばグループのトスク㈱が鳥取市内で移動販売を実施している。青谷地域では、日置・勝部地区を中心に運行されている。	この移動販売以外にも買い物支援が必要なのか、今後検討していく。	支援策の検討中。 ※H29年度から買い物福祉サービス見守り活動の導入：青谷23世帯申込済

ID	大項目	項目	施策	内容	目標	実施主体	現状	具体的実施計画	進捗状況
52	Ⅲ　誰もが活き活きと安心して暮らせる“まちづくり”	3．結婚・出産・子育て支援	子育て世代グループの活動支援	すくすく保育園で開設している子育て支援センター参加の保護者を中心としたグループの立ち上げ・高齢者との世代間交流	現在使用していない第2園舎の活用を含めた、可能性の検討	市民・団体・行政	第2園舎は子育て支援センターがあり、以前から使用している。 少子高齢化により園児数が減少し、第2園舎の使用していない部屋が多い。	保育園、市民福祉課、地域振興課、教育委員会分室、各地区公民館等、市の関係機関において、サークルの運営を支援するとともに、他地区についてもサークルの立上を視野に入れながら保護者等に情報提供を行う。	H29.3月に青谷地区公民館の自主的サークル「こっこちゃんクラブ」が立ち上がった。会員は、青谷地区の住民で、0歳～1歳までの子と母約20名で、月１回第１水曜日に活動。情報交換や、青谷地区公民館の事業に参加している。地区公民館単位だが、自主的サークルが立ち上がっている。
53	Ⅲ　誰もが活き活きと安心して暮らせる“まちづくり”	3．結婚・出産・子育て支援	独身の会の立ち上げ	青谷地域で会を立ち上げ、活動を通した交流機会の創出	可能性の検討	市民・団体	独身者の出会いが少ない、	青谷地域の独身者に呼びかけ、地域独自の交流会を検討する。	現状、動きなし。